

審議記録（要旨）

令和5年度市政モニターアンケートの結果

【委員意見】

○まち美化等を自治会や町内会に頼るのはいいが、加入者も高齢化しており限界である。町内会に加入していなくても活動できるような改善が必要である。

【会 長】

○活動が小さな単位から動き市全体に広がっていくことで、活動に賛同するところが増えていくとよい。

【委員意見】

○若い人向けにモラル・マナーの周知をするのであれば、重点地区を見直す必要もあるのではないか。

○大学や高校等に、啓発活動等を一緒にする人の募集を行うのも良いのではないか。

【会 長】

○重点地区の拡大については、10年ほど議論していない。

○活動単位や活動内容を縮小することで、活動への参加者も増え、条例に対する知識の深まりや地域への貢献度増大につながるかもしれない。

【委員意見】

○市民センターはLINEで情報を提供しているが、高齢者が利用するのは困難。そのため、印刷物の配布も行っているが、班回覧のみのところや全戸配布を行っていないところもある。また、自治会に加入していないため、配布されないところもある。

【会 長】

○得られる情報量に差がある点については、インターネット利用等も含め、情報が届かないところを減らしていくことを検討したい。

【事務局】

○町内会の解散や加入者の高齢化もあり、配布物が届かないといったことも起きている。今後、学生ボランティアの利用等様々な方法を研究していきたい。

令和5年度事業実績報告及び実施計画

【委員意見】

○迷惑行為防止チラシの配布はどのように行っているのか。

【事務局】

○小倉駅及び黒崎駅で、職員が迷惑行為防止巡視員と一緒に配布しており、駅の

利用者（来訪者）を対象としている。また、イベントがある場合は、主催者にチラシを預け、配布をお願いしている。

【委員意見】

- 次世代の育成に関して、標語コンクールを実施しているが、小さな親切運動のように作文を書くというのも良いのではないかと思う。
- 中学生のボランティアグループを育てることが次世代教育に必要であると思う。子どもたちが地域の中で活躍する場を与えるのも、地域の役割ではないか。

【会 長】

- 作文は時間を要するため、実現するにはハードルが高い。
- 先生主導ではなく、子どもたちによってボランティアサークルを作ることの中学校に投げかけることも可能かもしれない。

【副 会 長】

- モラル・マナーアップということに関しては、子どもに対し、大人がマナーを守る姿を見せることも大事である。
- 子どもも環境首都検定を受験することができるので、モラル・マナーに関する問題があると、意識が変わるかもしれない。

【事 務 局】

- 環境局が検定試験を実施しているが、さらに裾野を広げるべく取り組んでいく必要があると思う。

【委員意見】

- 過料1,000円というのは、金額的に適用者の心理的負担が大きくないように思う。

【会 長】

- 条例制定後、過料適用件数は減少してきている。
- 重点地区及びその外側、推進地区では、毎年、路上喫煙の定点観測をしているが、総じて減少してきている。
- 実際に路上喫煙者が多いのは夜のお店で、翌日になるとタバコの吸い殻が多く捨てられているというのが、現状の課題となっている。

意見交換

【会 長】

- これまでは自治会等規模の大きい団体の協力を得ながら迷惑行為防止の取り組みを進めてきたが、今回、小中学生や大学生のボランティアサークルのような規模の団体もよいのではないかというアイデアが出た。

【委員意見】

○毎年異なる団体に協力を求めていくよりは、特定の小規模団体と最初から連携するのも良いのではないかと思います。

【委員意見】

○印刷物は古紙として回収されてしまうため、予算を使うのは非常にもったいないと思う。

【事務局】

○時代の流れとして、スマートフォンの利用等を検討した方が良いのではないかという意見もいただいている。